

## 今月号のお知らせ内容

### ①工事の進捗状況等

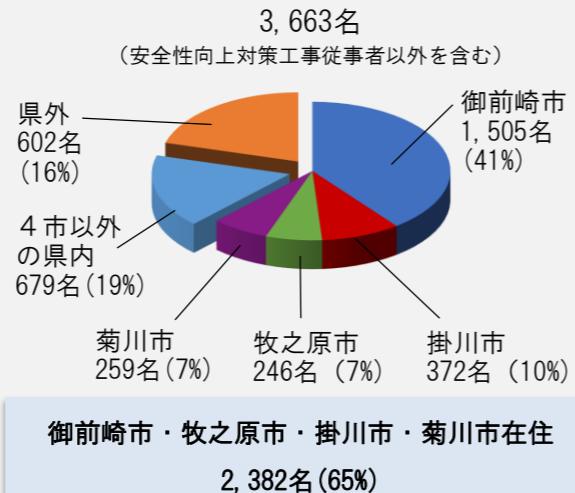
資機材の整備

### ②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

### ③訓練

### ④審査会合

#### 浜岡原子力発電所従事者数(6月1日現在)



※四捨五入により100%とならない場合があります。

### ①工事の進捗状況等

#### 福島第一原子力発電所事故を踏まえた資機材の整備

- 事故発生後、7日間は発電所内だけで対応できるあらゆる備えを行っています。
- 事故が長期化した場合は、外部からの支援を受けられる体制としています。

##### 事故の教訓

##### ①通信資機材の改善

複合災害の状況においても、通信手段を確保できるように多様な通信手段を確保することが必要。

##### ②居住性の改善

要員が寝るために資機材が必要。  
トイレなど衛生面のケアが必要。

##### ③食料備蓄の改善

災害発生時に外部からの支援がなくとも、7日間程度は対応できる食糧・飲料水の備蓄が必要。

##### 浜岡原子力発電所での改善

- ・電源がなくても使える通信手段を確保
- ・発電所内外の通信資機材の拡充



- ・寝具を配備
- ・仮設のトイレを配備

寝具	エアーマット 約700個
	寝袋 約130個
トイレ	毛布 約500個
	仮設便器 (マイレット) 約100個
トイレ	簡易トイレ用の汚物収納袋 (マイレット) 約13,000回分
	簡易トイレ用の汚物収納袋 (マイレット) 約13,000回分

寝袋  
仮設トイレ

- ・食糧・飲料水を1週間以上分を確保
- ・精神面のケアとして、非常食は多様性を確保

非常食(アルファ米) (全9種類) ドライカレー、 チキンライス、赤飯 等	21,000食以上	3食×7日 分×1000人	非常食の例
飲料水	21,000㍑以上	飲料水、非常食の備蓄状況	

### ②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

#### 第76回(6月6日)

##### 点検および確認内容

- ・原子炉建屋竜巻対策
- ・原子炉建屋空調開口部への自動閉止装置

##### 静岡県からの講評

中部電力の計画通りに進んでいることを確認した。中でもブローアウトパネル部への対策は竜巻を考慮した設計であり、原子炉建屋空調開口部への対策は浸水を考慮した設計となっていることを確認した。原子炉建屋空調開口部への自動閉止装置は、点検を計画的に進めていただき、機能を維持してほしい。

##### 御前崎市からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。これから夏に向けて気温が上がってくるので、現場での作業時は体調管理に十分気をつけて作業を進めていただきたい。

##### 次回の点検予定

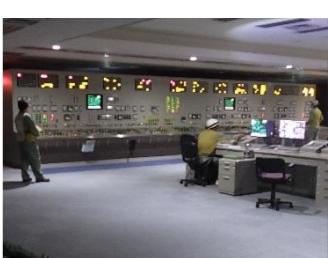
7月13日



### ③訓練

#### 3者間連携訓練(5月16日)

今回の訓練は、休日に原子力災害が発生した場合の「現場(緊急時即応班: ERF)」「中央制御室(運転員)」「本部(緊急時対策所)」の3者間の連携の確立を目的としておこないました。休日の発災以降、ERFによる初動の現場出動や可搬型注水設備を用いた注水において、3者間でタイムリーな情報共有や連携ができるかを確認しました。この訓練は、浜岡原子力安全アドバイザリーボード(HaABS)の委員の方々にご確認いただきました。今後も継続的に訓練を実施し、対応能力の強化を図ってまいります。



### ④審査会合

原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。6月は審査会合はありませんでした。

今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

#### <4号機の進捗状況>

(2018年6月30日現在)

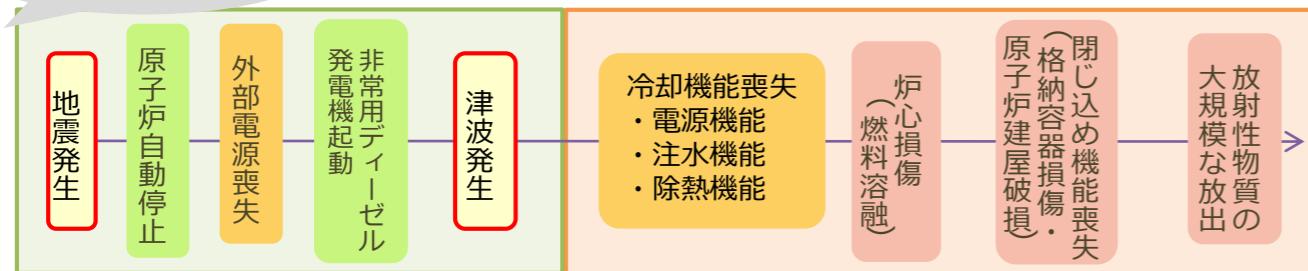
審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
審査会合の回数	共通: 2回	26回
		58回

# 発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

## ①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

## ②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定の重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一齊に機能喪失しないようにします。



【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。

また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

### 重大事故に至らせない

恒設



ガスタービン発電機  
高台40m地点から  
電気を供給

可搬



恒設の交流電源設備  
が故障した場合に備え配備



緊急時淡水貯槽  
高台30m地点から  
原子炉を冷やす水  
を供給(7日間分)

&



緊急時海水取水設備  
既設の海水取水ポンプ  
が故障した場合に備え  
同様な設備を設置

### 重大事故の発生に備える

フィルタベント設備

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通して、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。



### 放水砲設備

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

## ③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

### 【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間  
365日体制  
緊急時に特化した  
幅広い対応力



役割  
・戦略検討  
・アクセスルート確保  
・可搬設備の操作等  
現場対応  
(現在16名)

### 【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>  
・大型自動車免許  
・けん引免許  
・移動式クレーン免許 など

### 【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

#### 総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

#### 図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

### 現場訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要な力量の向上に努めています。(年間約630回: 2017年度実績)



#### シミュレータ訓練



#### 電源車操作訓練



#### 可搬型モニタリング ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。  
また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。